

「知床ネイチャーキャンパス」の試み-1

野生動物保護管理専門職の人材養成に必要な教育カリキュラムの策定を目的とした実践事業「知床ネイチャーキャンパス」を2016年より3年間開催した。

「知床ネイチャーキャンパス」3年間の内容

開催年とテーマ	期間	受講生	内訳	
			学生・院生	社会人
2016年 野生動物との共存	10月9日～10月10日（2日間）	22名	8	14
2017年 自然再生・自然復元	9月30日～10月2日（2.5日間）	20名	11	9
2018年 地域産業と野生生物との共存	9月19日～9月21日（3日間）	24名	23	1

受講生の内訳

学生・院生の所属	社会人の職種
北海道大学（農・水・獣・食・文・総教）	環境省職員
帯広畜産大学（畜産）	林野庁職員
東京農業大学（生物産業）	市町村職員
酪農学園大学（環境）	教職員
宇都宮大学（農）	NGO・NPO職員
筑波大学（人間総合科学）	調査・コンサル会社員
東京農工大学（農）	自然ガイド
上智大学（地球環境学）	一般・ボランティア
帝京科学大学（生命環境）	
新潟大学（農）	
北陸先端科学技術大学院（知識マネジメント）	
岐阜大学（獣・応用生物）	

講師及び現地指導スタッフ

講師と所属	地元実習・演習指導
石川幸男 弘前大学	知床財団職員
石名坂豪 知床財団	世界遺産センター職員
梶 光一 東京農工大学	森林生態系保全センター職員
小林万里 東京農業大学	羅臼漁業協同組合職員
桜井泰憲 函館頭足類科学研究所	岩尾別さけます孵化場職員
敷田麻実 北陸先端科学技術大学院	ウトロ漁業協同組合職員
鈴木正嗣 岐阜大学	ガイド協議会所属自然ガイド
竹中 健 シマフクロウ環境研究会	大学院設立財団役職員
中川 元 知床自然大学院設立財団	
中村太士 北海道大学	
野別貴博 知床財団	
福田佳弘 知床海鳥研究会	
増田 泰 知床財団	

知床ネイチャーキャンパスの試み-2

知床ネイチャーキャンパス2018のプログラム

2018年9月19日～21日開催 受講生24名・講師7名・TA4名

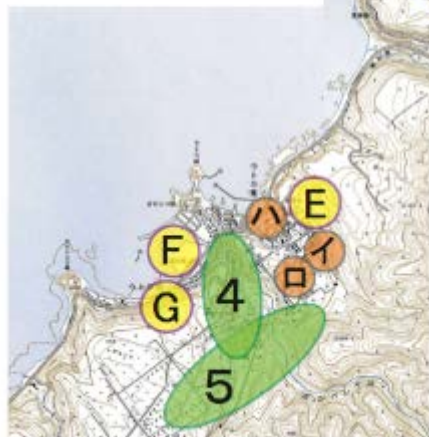
日 程		プログラム		講 師	内 容	時間配分
1 日 目	午前 9:00～12:00	開会・オリエンテーション			日程・講師紹介・受講生自己紹介・など	40分
		導入	敷田 麻実	グループ編成・アイスブレイキングなど	30分	
		講義1	中川 元	知床の自然の概要と歴史・産業	30分	
		講義2	石名坂 豪	知床地域の保全と産業との共存	30分	
		講義3	石名坂 豪	知床のヒグマ対策(観光・産業・生活)	30分	
	午後 13:00～17:30	実習1	笠井・石名坂ほか 各講師	国立公園利用とヒグマとの共存 (知床五湖・岩尾別川流域)	200分	
		実習2	石名坂ほか	農林業地域における野生動物との共存 (ウトロ地区)	60分	
夜 19:00～20:30	演習1	敷田 麻実	チームビルディングとワークショップ導入	90分		
2 日 目	午前 7:20～13:00	実習3	桜井・野別・小林・ 福田・石名坂ほか	知床漁業の実際・産業と観光 (羅臼漁港・市場・昆布倉庫・畜養施設)	120分	
		実習4	桜井・福田・小林・ 石名坂・野別ほか	海洋生態系保全と沿岸漁業・海生哺乳類と海鳥 類の生態 (海上:羅臼沿岸・根室海峡)	150分	
	午後 (公開講義) 14:20～17:40	講義4	桜井 泰憲	海域の生態系保全と漁業との共存	40分	
		講義5	野別 貴博	知床半島沿岸における魚類相の特徴	30分	
		講義6	小林 万里	海生哺乳類と漁業との共存	40分	
		講義7	福田 佳弘	海鳥保護と利用	40分	
	夜 19:00～20:30	演習2	敷田ほか各講師	ワークショップ「地域産業と野生生物との共存」	90分	
3 日 目	午前 7:30～12:00	実習5	桜井・野別・深山 ほか講師	サケの水揚げとカラフトマスの河川遡上 (ウトロ漁港・ベレ川流域)	120分	
		演習3	全講師	ワークショップ「地域産業と野生生物との共存」 =チーム別提案の検討と作成=	120分	
	午後 14:20～17:40	演習4	全講師	ワークショップ「地域産業と野生生物との共存」 =提案の作成と発表準備=	240分	
	夜 19:00～21:40	オープン キャンパス (演習5)	全講師	公開の場で提案発表とディスカッション	100分	
		交流会		受講生・講師・地元住民との交流会		60分



「知床ネイチャーキャンパス」の試み-3

実習・演習のフィールドと内容

図中 番号	実習フィールド	実習項目
1	知床五湖利用調整地区	ヒグマ対策・利用調整システム
2	100m運動地・森作りの道・国有森林再生・エゾシカ対策	
3	岩尾別川流域・河口	河川環境復元・ヒグマ対策・再生産
4	ベレケ川流域	サケマス遡上・天然再生産
5	ウトロ台地農耕地と市街地	農業被害防止・ヒグマ安全対策
6	羅臼沿岸海域・根室海峡	海洋生物保全・漁業との共存



図中 記号	利用施設	利用内容
イ	知床第一ホテル (2016年)	講義・演習・宿泊
ロ	ホテル知床 (2017・18年)	講義・演習・宿泊
ハ	北こぶし知床 (2017・18年)	オープンキャンパス



図中 記号	実習・演習協力施設	対応機関
(A)	知床五湖フィールドハウス	知床財団・環境省
(B)	岩尾別さけます孵化場	さけます増殖協会
(C)	知床自然センター	知床財団・斜里町
(D)	知床100m運動ハウス	知床財団・斜里町
(E)	知床森林生態系保全センター	林野庁
(F)	ウトロ漁港・荷捌き施設	ウトロ漁協
(G)	知床世界遺産センター	環境省・北海道
(H)	羅臼漁港・市場	羅臼漁協
(I)	羅臼漁組昆布倉庫	羅臼漁協
(J)	深層水畜養施設	羅臼漁協
(K)	羅臼ビジターセンター	知床財団・環境省



知床ネイチャーキャンパスの試み-4

テーマ別教育プログラム

知床ネイチャーキャンパス（3年間）の教育プログラムとフィールド

テーマ	項目	講義	実習・演習	教育内容	実習フィールド		実習・演習の協力施設と管理機関	
					地域	位置図	場所	位置図
保護区のマネジメント	世界自然遺産登録地	○	○	管理計画・モニタリング・管理の実際	知床世界遺産地域陸域・海域	1, 2, 3, 6	世界遺産センター（環境省・北海道）	G
	国立公園・自然公園	○	○	利用と保全・利用調整区域・野生動物と観光客	知床五湖ほか知床国立公園内	1, 2, 3, 6	知床五湖フィールドハウス（知床財団・環境省）	A
	森林生態系保護地域	○	○	エゾシカ被害防止・密度コントロール	知床国有林内	2, 3	知床森林生態系保全センター（林野庁）	E
	国指定鳥獣保護区	○		絶滅危惧種の保護増殖事業・狩猟管理	鳥獣保護区内・保護増殖地域		知床自然センター・鳥獣保護センター（知床財団）	C
	原生自然環境保全区域	○		原生自然の管理				
	民間保護区 ナショナルトラスト	○	○	知床100㎡運動地の管理・生物相の復元 ・保全と公開・ナショナルトラスト運動	運動植林地・森づくりの道	2, 3	100㎡運動ハウス（斜里町）・斜里町環境課	D
自然復元・自然再生地の マネジメント	森林復元地	○	○	開拓跡地の森林復元・ナショナルトラスト	運動植林地・森づくりの道	2, 3	101㎡運動ハウス（斜里町）・斜里町環境課	D
	河川生態系の復元	○	○	河川工作物改良・サケ科魚類・生物相復元	岩尾別川流域・ペレケ川流域	3, 4	岩尾別孵化場（サケマス増殖協会）	B
	絶滅危惧種の生息復元	○	○	シマフクロウ保護増殖事業・サクラマス復元	鳥獣保護区内・岩尾別川流域	3		
地域産業との共存	漁業との共存	○	○	資源管理・海獣類被害防止・漁業者合意形成	羅臼漁港・ウトロ漁港・海域	6	羅臼市場・昆布倉庫・畜養施設（羅臼漁組）	H, I, J
	農業との共存	○	○	エゾシカ・ヒグマ・キツネ等鳥獣被害防止	ウトロ周辺地域	5		
	林業との共存	○	○	エゾシカ森林被害防止	知床国有林・捕獲施設	2	知床森林生態系保全センター（林野庁）	E
	観光業との共存 ・地域資源保全	○	○	エコツーリズム・ヒグマ・地域資源管理	知床国立公園内各地	1, 2, 3, 6	知床自然センター・鳥獣保護センター（知床財団）	C
生活圏のマネジメント	ヒグマとの共存	○	○	ヒグマと住民生活・共存対策・普及啓発	ウトロ市街・羅臼市街	1, 3, 5	知床自然センター・鳥獣保護センター（知床財団）	C
	海鳥類との共存	○	○	絶滅危惧種保護・被害防止・モニタリングと共存	羅臼市街・海域	6	羅臼ビジターセンター（知床財団・環境省）	K
国内外のマネジメント	我が国の現状と課題 イエローストーン国立公園	○		我が国の保護管理・狩猟管理の現状と課題 イエローストーン国立公園と知床・歴史・先進事例				
隣接広域圏のマネジメント	オホーツク海・海洋 ・地球環境	○		気象変動と海洋生物・漁業・水縁生態系				

人材養成機関の検討-1 想定される教育機関

保護管理専門職の養成に想定される教育機関

	名称	内容 特徴
大学院	専門職大学院(2年・修士)	実務家教員3割・30単位以上・社会人入学配慮・既存学部＋大学院、大学院大学
	学部につながる大学院	研究職・大学教員の養成
	連携大学院・連合大学院	大学院と国立・民間研究所組織的連携(研究者が教員)
	共同教育課程による連携・大学院連携プログラム	設置基準の改正(平19)
	共同利用実習施設・機関(構想)	国内大学・大学院の共同利用教育機関
	学位認証機関(構想)	学位・単位の認定、共同利用実習施設(機関)
	Institute(構想)	研究・教育・保護管理事業・普及啓発事業
	連携専門職大学院(構想)	複数大学研究機関が機能・教員・実習フィールドを分担
大学等	専門職大学(4年制・短大)	新制度、実践的職業教育、隣地実務研修、2019年初開校
	大学学部	農学系、獣医系、環境系、社会学系の大学学部学科
	大学校(省庁・道府県の設置)	1年制・2年制・社会人 * 現場スペシャリスト養成
	専門学校(専修学校)	* 現場スペシャリストの養成

当設立財団では専門職大学院を想定しながら連携による大学院・認証機関も検討

人材養成機関の検討-2

専門職大学院

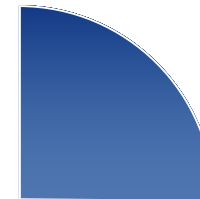
知床自然大学院大学構の概要（専門職大学院モデル）

1	名称	知床自然大学院大学
2	趣旨・目的	野生生物保全策、特に野生生物と人間社会との軋轢を解決し、共存策（ワイルドライフマネジメント）を担う専門家を、多様な自然環境を持ち、保護管理の先進地でもある知床の現場で養成する。野生生物との共存を地域資源管理の中心に位置づけ、持続可能な地域づくりができる視野とリーダーシップを持った人材である。
3	形態	専門職大学院大学
4	運営	学校法人（新設）
5	場所	北海道・斜里町
6	実習・研究エリア	知床半島を中心に、その周辺地域（広域知床圏）を含む
6	学生の受入方針 （アドミッションポリシー）	環境保全や野生生物と人間との共存に関心を持ち、ワイルドライフマネジメントの専門職や（研究者）を目指す学生、社会人、留学生を受け入れる。生態学の基礎を身につけていること。留学生は日本語・英語能力が一定以上。
7	教育内容 （カリキュラムポリシー）	知床をフィールドに実践的なトレーニングを行い、高度な専門知識と専門技術を身につける。加えて、ファシリテーション能力や、新たな環境価値・地域価値を創造する能力を養い、地域の実情に即した問題解決にあたる人材を養成する
8	学位授与方針 （ディプロマポリシー）	高い専門性と教養、問題解決能力を持ち、国際的に通用する高度専門職（資格付与検討）
9	卒業後の進路	地方自治体や国の野生生物対策担当者、専門行政官。企業・団体の環境マネジメント部門、環境教育機関や環境NGO、環境系法人の専門職員。
10	課程（1専攻2分野）	修士（専門職） 1研究科—1専攻—2分野 地域資源保全学研究科 — 地域資源保全学専攻 学位：地域資源保全学修士（専門職） 分野-1.野生生物保護管理技術分野 分野-2.地域資源保全政策分野
11	規模	学生 1学年 30名 合計60名 教員 専任教員10名：教授5 准教授3 助教2 うち実務家教員4名（40%） 他に非常勤講師
12	科目	生態学、保全生物学、保護管理学、野生動物医学、環境法、環境行政、地域経済学、環境社会学、環境倫理学、ヒューマンディメンション、環境教育、技術演習、現場実習、修士論文など
13	教育研究施設	講義棟、実習・研究棟、標本庫、図書館、学生宿舎など拠点施設のほか、実習施設、研究林などサテライト施設。新設のほか既存施設の改修も検討。
14	実習フィールド 実習施設	世界遺産地域、国立公園、国定公園、鳥獣保護区、森林生態系保護地域、原生自然環境保全地域、ラムサール条約湿地、利用調整地区、知床自然センター、知床博物館、知床世界遺産センター、知床森林生態系保全センター、農林業地域、周辺海域・漁場、農業施設、漁業施設。
15	計画推進体制	公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

=参考= 専門職大学院とは

- 高度専門職業人の養成に目的を特化した課程として、平成15年度に創設された。法科、ビジネス、教職等様々な分野がある。（環境分野は現在1校のみ）。理論と実践を架橋した高度で実践的な教育。研究教員だけでなく、高度な実務能力を持つ「実務家教員」を一定割合配置。

専門職大学院		比較 一般の修士課程
修業年限	2年	2年
終了要件	30単位以上	30単位以上 修士論文の作成(研究指導)
専任教員数 (専攻ごとに)	修士課程の研究指導教員数の 1.5倍の数+研究指導補助教員数 (農学系の場合) 研究指導教員 6人(4×1.5) 研究指導補助教員2人以上	(農学系の場合) 研究指導教員4人 研究指導補助教員を合わせ 人以上
実務家教員	専任教員の3割以上 3人以上 (8×0.3=2.4)	-
授業方法	事例研究、現地調査、双方向・多 方向に行われる討論・質疑応答	-
学位	〇〇修士(専門職)	修士(〇〇)
認証評価	教育課程や教員組織等の教育 研究活動の状況について、認証 評価団体の評価を5年ごとに受審	-



うち社会人学生数	8,418 人
----------	---------

(社会人の割合)

(50.7 %)

環境分野は現在1校
兵庫県立大学大学院
緑環境マネジメント研究科

まとめー知床自然大学院大学構想の意義と役割

知床自然大学院大学の構想は、生物多様性の保全や野生動物管理の実現のために、知床世界自然遺産地域と周辺地域において人材育成の仕組みを構築しようとするものです。

知床の世界自然遺産登録を契機に、世界遺産地域科学委員会が発足し、科学的で先進的な保護管理体制がスタートしました。これは「知床方式」とも呼ばれるもので、他の世界遺産地域や国内外各地の保全策のモデルにもなっています。

この知床で、野生動物と社会との共生を担う人材育成の仕組みが構築されることは、実現が急がれるこのような大学院・高等教育機関設立の第一歩となり、ここで作成されるカリキュラムは、野生動物保護管理のコアカリキュラム確立の一助になればと考えています。

当財団は、教育機関設立を目指すとともに、他の大学や研究教育機関と連携しながら、我が国に求められている人材育成システムの構築に寄与して行きたいと考えています。